

NPO法人えべつ協働ねっとわーく作成

■まちのショールーム

■考え方のプロセス

江別の顔づくり事業とは？	にぎわいの都心づくり
都心づくりとは？	業務機能を集約し富の中心をはかる。
業務機能とは？	本社があり産業の中心
江別の産業？	文教 農業 商業 工業

江別の顔づくり事業とは？
にぎわいのある江別の経済文化の中心づくり
建物や街並みの事を言っているのではなく、**人の営みを育む場所をつくる。**

■基本的考え方

・フューチャーセンター

江別は産学官民の機能がそろっているまちです。しかし、気軽に集える場所がありません。産学官民が垣根を越えて集まれる「まちの部室」のような雰囲気のある場所で市民と行政が一緒になって江別の未来を創れるきっかけの場所を作ります。

■利用方法

・大学サテライト教室（まちなかキャンパス まちなかLAB）

江別市と4大学の連携事業が行われていますが、一般市民にはあまり知られていないと思われます。そこでこの場所を使って大学が地域に溶け込む施設とし、市民カレッジ等の事業の充実をはかれる場所を作ります。

・音楽スタジオ(防音室)

江別で就労支援活動を行っています。利用者は自分に自信が無いから新しい事に足を踏み出せないでいます。自信が無いから声も小さい人が多いと思われます。大きな声を出す訓練をする事で自信を養い就労につながる場所として使用してもらいます。

江別には4大学と5高校があります。音楽を通して他校、他世代との交流が生まれ、また若者がまちなかに集まるきっかけの場所とします。(過疎の地域では若者を定着させる為に音楽スタジオを併設している公共施設が増えてきています。)

江別出身のアーティストが地元の人と交流を持てる場所にします。

- ・ダンススタジオ（防音室）

体育授業でダンスが始まりました。もしその授業がいじめの温床になるような事があればそれを解消する場所にします。

江別には劇団四季のアーティストもいます。その人たちが地元の人と交流を持てる場所にします。

演奏しながら楽しく学べる英語教室に使います。

- ・ロビー発表

解放空間を利用して定期的に市内の団体が発表に使用できる場所とします。

市民・行政・大学・市民活動団体などが、広報・演劇・コンサートなどに利用出来る。大学生も学外で発表できる場がない（お金がかかる）という声も聞いているため利用価値ある。

- ・ギャラリー

風除室ギャラリーを利用して市民の作品発表の場にする（ロビーも可）

アマチュアだけでなく、プロ作家の展示販売も格安で出来るようにし、江別の作家の価値を高める。（江別市内では貸しギャラリーが少なく、駐車場も少ないため、皆札幌や近郊に場を求めている）

- ・アートマーケット

市内の手作り作家の販売

市民活動に馴染みやすい30代以上の女性層をターゲットに集客の起爆剤に出来る。

- ・ボランティア募集窓口

大学生が利用出来る空間を持つことで、学生ボランティアの周知がしやすくなるため、ボランティアの情報が「ここでわかる！」窓口にする。

- ・観光案内所

江別市内の名所の案内をするだけでなく、ランチの美味しい所なども情報提供出来る行政では出来ない観光案内。野幌駅周辺のランチマップなどの作成もあり！

- ・江別市出前講座や大学版出前講座

団体じゃないと申込できない出前講座を個人ベースで申込が出来、活用出来るようにすることで出前講座の実績もあがる。

- ・外国人のケア
江別にも留学生や研修生など多くの外国人が住んでいます。母国を離れ心細く生活している人の相談窓口とします。
- ・外国人との接し方のマナー教室
江別市民も意図せず外国人と接する機会が増えてきています。その時に偏見ではなく正しい接し方を江別市民に教える教室を開きます。
- ・駅前の待ち合わせスポット
- ・シティプロモート
「まちのショールーム」となる事で、ホテルに宿泊する市外の人に江別の事を知ってもらい。江別は元気なまち！を印象づける場所となる。

「まちのショールーム」

■目的
にぎわいの都心づくり

■基本的考え方
江別にフューチャーセンターを作る。

